

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英語学 English Linguistics		2年	前期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (教職課程必修 (中学校教諭二種英語))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
リーディングⅠ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
異文化間コミュニケーションⅠ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
佐藤秀一	本館2F	火・水の11時から16時 (授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
英語を習得するためには、そのための訓練に励むことが必要である。だが同時に英語について学ぶことも重要である。ことば自体は情報や知識を表現し、理解し、思考するための手段であり道具にすぎない。ことばそれのみを学ぶことは究極的な目的になり得ない。英語は他の言語同様、それを使用する人、英語を成り立たせている文化、社会、歴史といったいろいろな背景がある。こういったことを考慮しながら英語と日本語を比較研究し、言語の仕組みを考えたい。英語の特性を理解する上で大いに役立つはずである。				
授業の到達目標				
①英語と日本語の言語上の違いを理解できるようにする。 ②西洋と日本の文化の特質を理解できるようにする。 ③英語の真髄をより広く、より正確に理解できるようにする。				
授業の方法				
講義、あるいはグループを構成し、あるテーマについてグループワークでディスカッションをし、それを各自整理、まとめて自由に意見を発表する中から、テーマの本質を見極め、理解を深める。				
学習の成果				
この授業を履修すると、あなたは ①英語の歴史、変遷が理解することができる。 ②世界で6,000語が話されているといわれるが、言語と文化、それを使う人間の認知の関係をを知ることができる。 ③非言語コミュニケーション要素の理解が異文化間コミュニケーションに役立つことが認識することができる。 ④英語の面白さを知ることができる。 ⑤英語の真髄を広く、深く、正確に理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明			
第2回目	英語：今に残る昔の姿—英語の通時的形態論考			
第3回目	言語と文化—言語の多様性と世界の見方 グループワーク			
第4回目	非言語の影響力—異文化間での相互理解を深めるために グループワーク			
第5回目	「面白さ」はどこから来るか—英語から英米文学へ			
第6回目	イギリス社会史・文化史の世界—一人ひとりの生き方と大英帝国の遺産			

第7回目	世紀転換期の英国小説案内—労働者と女性の時代		
第8回目	イギリス小説の伝統—Jane Austenはなぜ偉大なのか グループワーク		
第9回目	アイルランドの歴史・移民・文学—川は流れる		
第10回目	アメリカ社会と文学—アメリカ社会と宗教		
第11回目	アメリカ文学の流れ		
第12回目	研究対象として見る「アメリカ文学の多様性研究ノート」		
第13回目	聖書と英語—欽定英訳聖書を中心に グループワーク		
第14回目	Our Teaching-Learning Partnership - Getting the Most from English Study in Eibunka		
第15回目	まとめと試験 (答え合わせ・解説)		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		30%	グループワークに積極的に参加し、発言する。授業に集中し必要なことノートにとる。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		50%	内容もしっかりしており、課題の要件を満たしている。
発表内容 (態度含む)		20%	テーマをよく理解し、創造的な自らの考えを創意工夫し、誰もが理解できるように明瞭に説明をしている。
その他			
教科書と参考図書			
「英語世界へのアプローチ」 (三修社)		参考図書：授業中に指示	
履修上の心得・ルール			
予習を行う。必要なことはノートにとる。食べ物や飲み物の持ち込み、携帯電話の使用禁止。			